

昇「超」に転じるものが、非製造業で「上昇」超で推移する」とから、全産業では引き続き「上昇」超の見通しとなつてゐる。

その1



財務部

県内企業の景況感 現状、先行きとも 全産業で「上昇」超

2 売上高

十一年度通期は、製造業、非製造業とも増収とみており、全産業では五・八%の増収見込みとなつてゐる。

十一年度上期は、製造業、非製造業とも増収とみており、全産業では一・一%の増収見通しとなつてゐる。

3 経常損益

十一年度通期は、製造業、非製造業とも大幅な増益とみてゐることから、全産業では三・九%の大幅な増益見込みとなつてゐる。

十一年度上期は、製造業、非製造業とも増益とみてゐることから、全産業では一・一%の増益見通しとなつてゐる。

4 設備投資

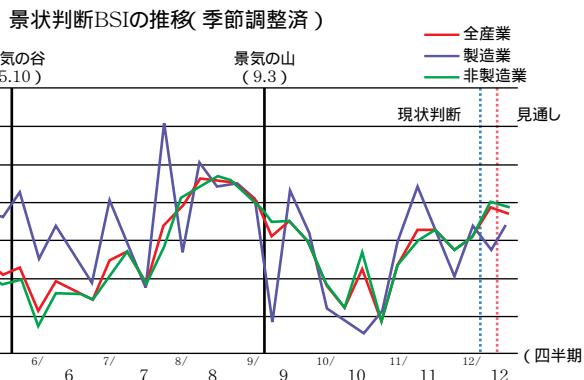
十一年度の設備投資計画を前年度比でみると、製造業で十七・八%の増加となつてゐるもの、非製造業で三・六%の減少となつてゐることから、全産業では二・一%の減少見込みとなつてゐる。

先行きについては、十一年四～六月期は製造業で「下降」超に転じるもの、非製造業で「上昇」超幅が大幅に拡大することから、全産業でも「上昇」超幅が大幅に拡大する見通しとなつてゐる。十一年七月～九月期は製造業で再び上

7 資金繰り

現状では、中小企業で「きびしい」超幅が拡大してゐるもの、中堅企業でゆるやか、超に転じてゐるほか、大企業では引き続き「ゆるやか」超となつてゐる。先行きについては、中小企業で「きびしい」超で推移する見通しとなつていて、やがて「超で推移する見通しとなつて」ゆるものの、大企業、中堅企業では、やがて「超で推移する見通しとなつて」ゆる。

BSIとは…
景気動向指數（ビジネス・サーベイ・インデックス）をいい、表の見方は次のとおりです。
BSI=「上昇」等と回答した企業の構成比
（「下降」等と回答した企業の構成比）



*景気の山、景気の谷は全国ベース

5 従業員数

現状では、製造業で「過剰気味」超幅が縮小し、非製造業で「不足気味」超で推移している」とから、全産業では「不足気味」超となつてゐる。

先行きについては、製造業で「過剰気味」超幅が拡大するものの、ウェイトの高い非製造業で「不足気味」超で推移する」とから、全産業では「不足気味」超で推移する見通しとなつてゐる。

6 金融機関の融資態度

現状では、中小企業で「きびしい」超幅が拡大してゐるもの、中堅企業でゆるやか、超に転じてゐるほか、大企業では引き続き「ゆるやか」超となつてゐる。先行きについては、中小企業で「きびしい」超で推移する見通しとなつていて、やがて「超で推移する見通しとなつて」ゆるものの、大企業、中堅企業では、やがて「超で推移する見通しとなつて」ゆる。

全産業では、国内販売体制、営業力の強化、を挙げる企業が最も多く、次いで「企業実態に即した雇用、人事、給与システムの確立」、「後継者、人材確保、育成」の順となつてゐる。

8 中期的な経営課題

十一年度の設備投資計画は、現時点では不確定要素はあるが、製造業、非製造業とも減少する見通しとなつており、全産業では十七・八%の減少

超で推移する見通しとなつてゐるもののが、大企業では「改善」超幅が縮小した後、「悪化」超に転じる見通しとなつている。ほか、中小企業では「悪化」超で推移する見通しとなつてゐる。